

年度 2008 学期 後期	曜日・校時	木ー3	必修選択	選択	単位数	2
授業科目/(英語名)		言語と芸術（音楽コミュニケーション論） Language and Art（Concept of musical communication）				
対象年次 1・2年次		講義形態 講義		教室		
対象学生(クラス等)		全学部		科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員：西田治 /Eメールアドレス: osamu-n@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 音楽棟 201 /TEL: 2341 /オフィスアワー: 水曜 12:00-12:50(メールにて事前に問い合わせてください)						
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標（500 文字） 授業のねらい： 音楽はあなたの生活の中でどのような役割を担っているだろうか？音楽がコミュニケーションを促したり、気持ちを高めてくれたり落ち着かせてくれたりといった体験は少なからず誰もが経験しているのではないだろうか。そういった音楽の役割について様々な知見や自らの経験を通して考えてみようというのが本講義の目的である。音楽そのものについて考えるのではなく、音楽と人間の関係性について考えていこうとするものである。また、音楽そのものを学ぶ場ではないため、音楽の技術(ピアノが弾けるなど)は一切必要としない。むしろ音楽に苦手意識のある学生にも積極的に受講してほしい。 授業方法： 講義中心であるが、受講生が実際に手作りしたり、ゲームを行ったり、ディスカッションをしたりという活動を何らかの毎回取り入れる。また、受講生グループによる活動の際、グルーピングはこちらで指定する(毎回、違うメンバーと接するため)。 授業到達目標： 音楽と人間とのかかわりについて、あるいは、音楽と自分自身の関係について自分なりの考えを述べることができる。						
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)（1300 文字） 授業内容(概要) 毎回一つのテーマを設定し、講義を中心としてグループによるディスカッション及びワークを行う。 第1回 オリエンテーション 第2回 コミュニケーションを促す各種ゲーム(電子ゲームは除く) 第3回 手作り楽器の制作① 第4回 手作り楽器の制作② 第5回 手作り楽器の創作 第6回 音楽を聴くことについて(自分の感覚で書く) 第7回 音を聴くということについて:サウンドスケープという思想 第8回 音楽・音で綴る自分史 第9回 音楽療法(音楽でコミュニケーションすることについて)① 第10回 音楽療法(音楽でコミュニケーションすることについて)② 第11回 音楽療法(音楽でコミュニケーションすることについて)③ 第12回 音楽は国境を越えるのか？音楽の普遍性に対する考察 第13回 共に歌うということについて 第14回 音楽を「教える/教えられる」ということ(音楽教育あるいは伝承について) 第15回 全授業の総括(試験を含む)						
キーワード		音楽、コミュニケーション、療法的音楽活動、音楽療法、手作り楽器、サウンドスケープ				
教科書・教材・参考書		毎時、プリントを配布 参考文献としては以下のものがオススメ 生野里香『音楽療法士のしごと』春秋社 若尾裕『奏でることの力』春秋社				
成績評価の方法・基準等		出席 20% 提出物 40% レポート 40% ●欠席が3分の1以上を越える場合は単位取得不可。				
受講要件(履修条件)		授業への積極的な参加が必要とされる講義であることを理解した上で履修すること。				
本科目の位置づけ /学習・教育目標						
備考(準備学習等)						